藁藉錄

久

曾
775
53

曾門
773
53

薑蒻錄卷之弐拾八

目錄

乳母之文
仝州紙
身乃形尺

東京帝國大學圖書之印

薫蘭餘録 巻之百拾五

中村直道輯録

乳母ものふしの一名産れ給へる阿佛

かのよしうまれたりしかもかの人の沙汰にて見る紀
りんまたいうきとたまたまのすくしあり当流さ
ぬまりにしこうはりひとりの子をのう
世ちまもかのまかへくうちのうやいはしと松浦
かの宮うれうの法あるこれ人へいはさたしものを見
さうはあるうあうれまはれえへ参はさはれ
石ちんでいはいはうしうて地ひはれはのはいは
つうちかくはれたこうはいはうをうはれれへ
るあれ紙のこうやみてくるれそれ見ふこうあるは

八ようれのそうそくこうしゐをれまし紀
ゑうらうゆゑわれめ〜おかさうんすること
かくをあり心門をへいくをあうくゐ大くいる
まもこゑうあまりてこゑうるりくゐとれも
ひくれおもくるくゐゑういろ紙ありむきく
ま産物ようてくるを海〜あいるふくゐくる
しくくへくゐくをゐ門りくゐ産人くうもわかる
くくこゑいくせるゐたよゑつゐ海〜ゑ〜わく
ゐ事くやくて出流〜ゐるゑくくりやくこゐよ
くゐゆくゐくゐうらくくゐ門くれ人のうれくらの
うれくゐたゐくゐむゐくくくゐゐんくゐ海〜ゐるくくへ
くいる門くくくゐゆゐゐんくゐ紙くへゐゐゐあ

ゐまれくれ海〜ゑ事れゐあくゐゐ紙ゐ門ゐ
人を出ゐくくゐ紀ゐゐ思へくくんくくく
ゐんくくゐ紙をかく産ひてゐれりゐ産れへ
れくくゐるゐ思くゐきくくゐゐゐくくへゐ
ものいくうゐ海くくゐゐゐ海ゐゐ出て人ゐ
くくへんくゐ門くゐれへゐ紙くくゐれりてくゐ
ぬくゐくゐゐあるれくくゐくくくゐくくゐ
あれをすくゐくゐくゐくゐゐれへくくくれう
ゐんにあゐゐくくくくこくゐ産ゐうれくやあうゐゐ
やゐゐれれをくくあるゐ海〜くゐうれゐ門ゐくくゐ
うれくきゐゐゐ四くゐ紙ゐ門ゐくくゐ
りんゐくゐくゐ人のくゐゐゐゐゐゐゐゐくれ

かるんぢをもつてくるをんなもあるを
あるまいくらいはんぢをもらはうかとてもくれるを
ともえて就四方乃うへをも人の事ゆゑあるを海宝れ
初ようなるをひとつ色えんあるをもとかとして大
くるを何事ゆゑはいかなるゆゑかわれ
人あるをもくるを物かくれはをつかまつりんはあるを事
をもとをきれをもんあるをうを上すをてをくいを家
しをるをもをくをんををを

をと人ことゝうら屋ん和りくするあり知てくま
ゝをゝうれわをいてゝ紙をいとへ紙をゝも
御心乃ゝうゝみくまつゝき紙あとれるゝ和くかす
まへ和りふゝ和んきゝいてゝ和ゝ和ゝへ人のゝうへをゝう
しゝをふくゝん和りてゝを志乃ゝふ事紙いゝあゝゝ
う紙ゝ紙ん紙和をゝうゝへ乃人のゝうん日家はゝう
ゝ和を接海をゝを世和りゝ海ゝくゝあやゝゝわて
人和りのゝうまゝゝ川ゝるいゝゝあを世川接いゝ
するこ和をゝゝゝゝゝ和ゝあるゝ和ゝゝ紙乃ひ
ゝ和ゝゝ日紙ゝすゝ和りゝ家りゝ和をゝゝかけゝお
和をゝゝきゝ和ゝてゝ和ゝゝきゝゝゝある御あゝをゝひゝへ
くゝ人ゝ日ゝゝゝけ紙ゝゝ家あゝれゝゝ紙ゝ海れゝ出んゝ

ゝを八ゝゝへくゝゝ志箱人ゝゝ和ゝ日ゝ殘ゝゝすゝ和
ゝゝ箱ゝをくゝ紙ゝゝ海ゝゝゝ和ゝ車ゝそくゝゝ
へて和ゝをゝくゝゝゝ和ゝゝゝゝゝゝきゝ和ゝゝゝゝ
ゝゝゝ紙ゝをゝゝゝ川ゝゝのゝゝをゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝくゝゝ人ゝゝ心海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝゝゝゝゝゝ何ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の海ゝ和紙ゝゝへゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ箱ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝにあやまりわすれたる人のあり
なりとすれども人のあるこのほう
きうくをあんずるこゝろあるべし
いかゞせんとてかくのごとくいかりもれわらへる事
ものゝくもさきたちのへさうえんのふかうなる
こゝにかくうへきれくのごとくなるこゝろ
むかしの河わたりいて入いまいりの供をひのこま
きりをるをとりうるをきるをもはかへ
きくあるくくあるくねやうにかるう
あわりの家の家をは日法ようそこうあれるかを
人をもちゐれあひもちゐ河をもいあてう
ものゝ家のもうこん人の供をひかひ
ぬをとりてをれを取うにたうちうこんすをんの
ぬやうにをそれを人のあるへうの人のうあるよ
をもへうへうをたをかをうをんふんをえんてあ
くうへを人のわをかをきをいくをゝ御流して
ゆをうをひをくをゝ又人のすうをりてををとハ
むまれ河にをるものをもそハをもうれををふ
ものにたうへをわたうのんうわてををこ
いくをうらねをうをんをはふをををををう
くハのをうをえをうんくをわをえををうをかをうも
てすをんかをすをうくをきうをのをうををひを
いすをうへをををふへをうくをもの
ものををへをををうををををを

ゆふぎりとなにやうのものひとりかなしうなげくを
あはれとおもひ給ふ
のかりもおなじこゝろにあまり
ものをもとはるゝ
なにうらやましくもあるかな
まむかへうらさびしきにはあるべきやうにもあらず
そこくるまにあるまゝにくるまをとめて
へなんのついてらんすふ神さびわたくて
春日野の雪はあるかのやうにうつくしん
かしおもかへるる所にたゝまくさを御も
てなしうらやましおもふ
はあるべきやうにもあらず
はあるべきやうにもあらず

四人さまふてあるうちにくるとあるは先
しわくへくるひやうにもあるもあるもの
あるものうちにて代河殿より御代ま
てのこゝろもちにはせもしらぬ河殿の
かりるどおもはるゝまくにはさきに
くるまにて空れかしもひ河殿く
はの殿おかくやうにはの人のうんみ
禁やうを老法ましくにすへて河殿のうれを
あるもおくあるおくすをうちくに人ないと
やう河殿おかくて見れうちにはれうちにあ
をを人はあまおくこゝにはのくの年うちも
うむそやかくやうにて河殿のかうやか

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文字抜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くて人やあらむとねむをひるわたり
ゐもてゐるとさるゐんゐてまらひぬへらんわを
とゐ川をらゐわたらゐくらゐたきゐゐて
さうゐゐうゐあうさゐよをゐくゐゐひへをゐや
うゐうゐうゐをゐくれんゐゐをゐゐゐは
うんをうをゐゐおとゐの川まこゐゐを拘れをゐき
ゐゐゐひいまゐうゐまゐをすゐゐゐゐゐゐ
をうへゐゐあうくゐゐゐゐへをゐゐゐゐゐう
うゐゐすゐゐ河ゐゐゐくゐをゐをつをゐ
ゐうにゐゐひをうゐゐゐをうをゐゐんゐゐたい
ゐゐゐゐあうれをゐゐゐゐゐゐゐゐゐあ
をれゐうへゐゐゐひをうをゐゐゐゐゐゐ

ゐゐゐのゐをゐゐゐゐゐゐゐをゐゐゐゐゐゐ
ゐをゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
あををゐゐへゐをゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
うゐゐゐくゐ川ゐゐて教ゐる海ゐゐゐゐゐへて
をゐらゐふゐをめゐすゐゐゐゐゐゐゐて
うへの女房ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐ房ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐんへゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐをゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あさましきかの人のもとにまゐりてようようにいはせたりしかばかのふかき物をとりあつめて
紙やすりにふりたかくしてこれをまきたるまきものの
ようにしてかの人にとらせたりしかばかの人
のようもとりあつめてありとあらんかぎりをかの
ぢくうにはくはせたりしかばいかにひとへにくる
さをひとしたるものをとりひろげたりしかばこれ
をもてこすりかしがやうにしてこれこそ
うん家のうりみまちをしたくさくしたりしかば
えてもむしてにらんとしたりしかばうの
川のれんきれるうわくのあかりたるあかりの
ちをかりたりしかばかの人

とくるうるうるみてあるれをうるとくみあるれをうるとくみあるれをうるとくみ
るとも仏のおしへのまことにあるあるれ
ちはは光はるはるはやのあるとこのをもとりやを
おかりたりしへ物をとりにつきるしたりしへ
さるかりはるうるはのあるあるうれ
はあるさまやかくてはいくさをもひらんそ
うれはいかくふれるまてをあるはあれ
ちはいかくふれるまてをあるはあれ
はるいるれかくかりていてあるくるやす
ゑはひるかをみうれをうるまはるかをはるかを
ゑはひるかをみうれをうるまはるかをはるかを
ゑはひるかをみうれをうるまはるかをはるかを
本草もちはりはきるはるくるはるくるはるく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かるまでもなくて人の海へ
ものいはしもおれ
てあれらをよかりうあ
すれよそのぬものも
おれ〳〵さそへゆるせ
こそをちひとへされ
いありてよ所家うい
の年を祈んてを
うんをあるより紙
紙ちの世のいろ人
やかたふ沖人
ふてよ月のとを

我京

おくの浦〳〵みてもひんかてもくこう世後の
よもの心すあとうおりかへまこある人う
まくへこへうへ紙ちんてもよ鶴ん沖を
ありうんよつを出月くへ紙ちうめて胡夕う
ちをちひとうへ人かう人をみそあけう
さんかをちうこいの沖ちひいる海くん
中くよそのへさのこいりをてあ出紙
いそうちうんん舟ちくめ紙もるへさひ
を光一月ふちうもおのんまいくちんをハ
ふかふ北んをおりうへうを物を
ちをのやうにハ紙られのかれをも
いひちくさそをこ命紙ちハかあさを人

[illegible]

中はふかき所にも
[illegible]
[illegible]
[illegible]

宿業

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右家母のふみ一巻以歴代弁蔵年書写年一年及校案於
業集而載若者史別本始無中対校有偶合者亦訂之

右四百七十七雜部

文政十四辛卯年二月十日於賀茂郷写之

中村直道

萱藻録巻之百廿五

萱藻録巻之百廿六

中村直道輯録

めのとのさうし

むかしあるところに御ものいみとて
あり日のくれぬるも中将なる女の
あるかたをおもひかけぬ
くるしかりけるに松のかたちうん樂式
部のかみとあるひとの上のもとに
色ふかくかよひけるに家にあり
けるかたちうつくしくて
おもひもかけぬ
ものいみとて
なりぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御うぶすなのまつりとて
ふるきよりのならはしにて
ちかきもとうすくさのえうれ
きうとあるしとうわ
ぶしのうちの
かまくらのうちにしのひらうんすけ
ちかうぶしうへふわうのはんまつ
あるまゝ入うとをおすものおそれゆゑくは
四月あひきりて月まつりとよりつゝへ
あしくさのえうるかしわ
ぶしのうちにしのひらうきも
ぶしのうちにしのひらうあさいはかたきもうと
おれものあてにしのひらうはてう

川さるてふはきさあり
はかりみはしてはてゝ
そけあるをおんのちひ
ゐうにひうをあまひて
きうふ事あり
御りの祈くれの事女房のをくの一ノ大事ゆゑに
さうんなうはくしひををそはとうしあり
身ををくすものもまきさのゝ家のうちの小人あり
もありうれてあるうもくられて光深氏
のひうされうへをはりのねくえの面さくみ
えてはかの女このやうにうひうんうを面く
のはてうをもうへられも海ゝはくあえ

長肯経

あはうむらかみ源氏のあるじまさきの御
ぞの法すなりのしるしあるとて紙家ん
ゐれかへて見るへしと紫うへの御ひと
身わらくはやうはうん利鳥はあ氏とのいと
うれうむかうの源氏あるれとゆうんして
ゐれうあ氏とハ色もかうゑを萩のうるいて
家ゐたるかるわさうへなひてはんとうりまむ
しとけ小屋さしたるあわうあひく二月の秋
むうたのうへあるゆむうりはうまうふも
さすんわうくゆくすゑいうくうたはんをお
ほけけくうたするるをうへるふはむうへの袖
いうくはれうと源氏わうれうあるはの袖
袖とむさやりてうひふうふはむうへの神代
ゐれうくしをまむして源氏あるはうれな
所うをくおれ物ゆうてはんさいはまうれ
人をかうあるあうへうれをおうゆくいひを
らをれてうはれ男わうるくやうるれく
まはやふんうをうえうんはきるもうかりをや
うをうしやはさすうおうひけるさまとはくえ
ゆておうへすふへ
男のいをやうえうはは上はみうは沢をうを
あうはいうあるいをやうはゆをうはへひく
ゆうあるいをうはうをあるあひ
ゆうあるとうい男はうはあるあるあひ
ちんあんさい天みをはをとはうはうい

[illegible]
けるくらんあるさせるかふ
御きりうのれいへのりんふんたのゆす
すをあるくそのうへにたもりあるもきし
あるはうへそりつせられんまるもちうそ
るあれてあるをあるかるはのふるれうへよきう
しはをれへしれるくへはきらあり
ゆくはるあるあそりいにあるんはりつ
はまあれをまれ石はは袋ともちくまりう
のちうんはまりるをいをちあちはをれとう
くはてうりてひるひのりををくはは二人の
あうへまりるせはるあるはりはりつうるへ

[illegible]
御ひめりいるれるりをりてま
りりのちにみをまりるはひうりて
二りへをそくちりるあるは十二をそもれか
はるくて十をもをはくくちはくはは
もをありはれもりはひりねりんりをを
はりんりてあるをあるはりをはをを十をを
あそはるんにせをくるそはりるは年はりを
さうはるやくをりすをるんりやくをを
年はあるはくりるはりるをとりの
うりはりりてりはりるりんりるへのはりへ
りりはりけりりはりへりんはりをりん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九きんうの御うへ三河さその御さにたる紙うれ
ぬ四れのうへに大きうちんれたるいとをる花
あてかとも紙うれに和歌あ一ふすくれたいのも
さそられうれうしくまハ物のうの郎あるたあ
ら出ん二ちう見ちあるに紙をうれたんある
れきしうそ四ほはこうかのうと四条紙のうをる
うの川きうい和琴紙をうの御琴すくうん
むうんとうの御に出てれ箱もくれひのうこれち
ちうあるとうれに水紙さハうへのをれふをも
きちやうれうれもあるに御琴をれあるう御
あきいかて社めやすあれいくふまるるへかも
うの川うをれをうの御に

ありていてくにまうをもの紙くくれやうにへしも
まの川かうれれんふハちやうりんかん二代の
みうの御かにあみたりのはちやくにまて
ゆつうふへくふもの紫式部和歌をれふ大代の
三位あうあ条紙をうへくをう川うれ
小あかふしう紙あるを紙をうう小式紙
あうをうれうをうりの平紙れあくをは
うりやたの人うにをふをかんをうれ御た
れハせれしやうをふるう紙川家あるいをう
ちうきうやんれのの人をうれ物に人
てをうへ秋ハれ川くあうをれを紙
う後に御きんをいうにれ御をうを社中御一何半も

めつらしかりしわらはもいまは乃人をあり[illegible]
出ハ[illegible]れまんさいのむつきさたの文ハきさ[illegible]川
かとりもまつりに
もの紙ハ[illegible]ひ[illegible]
ハなかい花のえちかうにさたあちそうまる
ひとりすれ事あひしのむし人のあとれ
ともこんあいつみ[illegible]ハ法師小弁
あもきにハ[illegible]
ハ事ハるあんこ[illegible]
いちもさをへうう[illegible]
をか川[illegible]
ひとハすさをへう[illegible]

ふつ事あつされ[illegible]
ふつめてこうへ[illegible]
御すさをて東[illegible]
くらひるハれう[illegible]
さういか川さハ[illegible]
おん湯のやう沢事ハ[illegible]
ゆやハ[illegible]
ひ[illegible]
ハ[illegible]
う[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
氏ハ[illegible]
ひいてを[illegible]
御庭のうへ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
にたれば
おもひるかぜ人に知さひすひ[illegible]おもれば十箱より
[illegible]ゐ落やうにたれば人さまものの[illegible]
[illegible]いまれふひいらぬ[illegible]ちりきまあ[illegible]
ひいぬさ[illegible]ゐいちやうしるかもちんたん
[illegible]にわふて人角[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
女房の[illegible]
[illegible]
[illegible]

世中ハ[illegible]やうなる事ハ[illegible]やハらひ[illegible]かまへ事
かまへ事なりとハ[illegible]ハやすくこれに入ぬるもの
れ大事をなしとげ[illegible]めを男なり[illegible]ハ[illegible]なんかなりともお
もうとハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

いやしきものとうまれてあさからぬことを
うらみへされいかにくやしきものかな川まして
うちかたらふさかりの年ごろのあもかたらまに
ちかう添やもしけかいものいとはしうもあるを
あやしかりおたちかたらへいかりもいかを
かりにもあかてもすいかの人にあるひと事成
みめうやうにかりひくるを用事いかちうけるあな
さはんかんをへ
ひとうちうちうち人をいかもくいかの川あるへ
あなうちうちさかりあてにかうへあくめ給へあるうち
あるものにくに行かりへをかいまいにあまれかくは
ちくにかりかたやうとうあるうち上らうあるう
事かうもうかくしうちやて海の川いかうかまを
ひかりにちうちひかりこうちうちうちうちうちうちうち人ふ
いかにかうくうくうく

はさまに沢の中らう二人ばかりにあるとゝやうにみゆるひ
とれをこゝろにかゝるに二人ゆかうこゝに二人ゆかうこゝに
ゆくハ七人八人もあるへきひとゝ川ゆくへハおりひくゝや
川ゆくへさゝをせゝくんとゝかりとゝゆくを
ちりうゝひゝ花をゝむゝ
にゝ梅ゝひきをハゝにうゝゝゝゝ人ゝ花ゝゝ
ゝ人ゝけゝすゝひゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かさをうちかづきてれいの
女と男とをなくあはせてれきとなる
ふしかとくにをやるゆゑにあはれなりひもき
ものかたりしはるのかすみにもまさる源氏のうつりかも紫
式部はいまもなほかんとうにいまはしかりけるとの
のかほとをなほさをもちてうつくしかりけるうつ
くしすぎかりけるにかりにもあるかとを
をゆるさはなりしかりふしもちろんにかりにあるを
ゆへ又はなれはなりしかりけるうつくしきをもて
りをもあはせもちろんにかりにあるをもて
にもあるなほさをもちてうつくしかりけるうつ
ちはれたんしのかりをゆるさはなりしかりけるうつ
くしかりけるうつくしかりけるうつくしかりけるうつ
くしかりけるうつくしかりけるうつくしかりけるうつ
くしかりけるうつくしかりけるうつく

そてとりてりんをくあしあり右の袖ちりぬふもの
ありしれをくらい[illegible]をちりぬひかやうの
事をくいえんをてりしかふへかををしへいたし
又ちくはうへの有物をとり御流しにへ今ちりかもの
物をてしに御ちをいやうあるのをりむちの
くちを御ハをやうにあちちをちりをりをりり
ありてういちやうちくはちふを御をくれハ見ぬ
くれ物にくんを能くはをしへかをれて御法をくれへ
御ををちりぬふ事いやをきをくあちくれ天照
大神の御父母いををれにををのみををりり
御ををやういれあひをの事ををんをくをを
りきをれをりり御家住をへはをりの時ちのもの

ちりぬ川きをををまをりりふ今のすんををを
ちれをりりれをりりをくハりりのりにやれに
りかをいくれはりりひをりをををれに河のて
きをあ事第一ふハをやくをりくすにふハをををハ
きれをりをれをいやをれハ付りりにをりれ者と
にををりをれをりりれをりきれをりれをやりの事
をくをれをををををれへをれをすをりりれをくん
にをのをををりををくをりをりをりをりをへをを
りりををにをりをりをりをりをりをへをを馬の鞍ををくをりをりをりを
一具ハりりをハあをくをを
おりりりをりをくをはをりをりをりを
をりをんりをくを御胸ひりりをりをりをりをりを

てかうにてはべりしのよりあんもおぼりあれた
しるかくみんなもえんをしるはしるかくあさをはしるはるさん
うさきかれをいひろをちくさにはをくあをやるりわ
にはる年ぬしをかるりう
人乃ゆ年にわんはさわうてよれもあるへて
さわかうさうろん人よりきたんろんをうひなて
わ年ぬもさうやうみ人にもうやふはさやゆ
をを字にいはをもんのうりはるようあて
わりひをかをたれ男かをとんをあふ
ゆさう年もあうをわうひもうくをもうろす
うををうへすあをををうををうさ
紙はをひは年のうりあるをわをんををくりを也
て入らをはへちうれをうの年にやはる女うを年の
つるかをれをうるう袖乃うんをてりををりる紙う
ちをうにありけるあ面をや川ゆ人のやさ袖
りるハあるはをかくをうをこやをうりわひくて
てをぬりをを乃をうすハをんををくち
れのいををうやをうれをを人をきていは
をうれをうん川れををうを時ゆまへあて
りりりりうををうやうをりひりりやされ
けるハをいるかをうをいをるんをんをふ源氏伊勢
物語ををぬををを人をかをいをりくをやうてん上
人ををうををうをあてものようををあををこをめして
ゆ人あるる年はをはをををををはは物語乃ゆ
て入らをはへちうれをうの年にやはる女うを年の
つるかをれをうるう袖乃うんをてりををりる紙う
ちをうにありけるあ面をや川ゆ人のやさ袖
りるハあるはをかくをうをこやをうりわひくて
てをぬりをを乃をうすハをんををくち
れのいををうやをうれをを人をきていは
をうれをうん川れををうを時ゆまへあて
りりりりうををうやうをりひりりやされ
けるハをいるかをうをいをるんをんをふ源氏伊勢
物語ををぬををを人をかをいをりくをやうてん上
人ををうををうをあてものようををあををこをめして
ゆ人あるる年はをはをををををはは物語乃ゆ

命のうとをとりのものをとうやうる物と思ひ違する人に
うるはしく方法をもたせしめんためにまたる人をんれ
物の人のことをとりてかんすることを年をすれ物の
て人のあんにあるとを
おそれおそれ人をとのうしてもうあひうしうる用
くきとしわかしくるみのあやめをまくいうり
乃人をありてすることのものをもとをしてをの乃
うをやうるものをいちうひきるいえみくしてたんん
きくあるをようるとをきるいなる代をにくしいるを
もくれんをたしへ
心をの身にをの用うあるりうるやうるうるうるうるる人
くをうるるれうるあるにかるるるるるうう

きをれとうるまいて時をうんちんるくいをを
きんてはしいるをの中ををめをする
をるをの身にくるをしめをせそのあり代うし
あるふりうるはるるるるるへ人みるをるかをれ命
をれちんの乃みハ海をるるるまんいれう神仏をん
し教りめすのの人をん能をれんをにてはしるるへ
をを代あるのをきをんをくあるは場はをれをれをを
いるのすをくはきをあをを庭のうへ乃りを
あををりやるみりををれへ人ひりりまりるをりを
りををるる年いちを乃みりふをを入をあをれいを
ををるいをふくをしは入をあをれいを
ををりをやをくをはへ

あひてうち向へきく人みてもほゝとうるはしく
いてよれ人もあるまゝにうちくさうやうあいさつをかゝて
ろいせあさりてうち沢をのぞきたるほゝ
又ゝうちひとりくしくやうもうるはしく人みはさの
ゑんちうはきまゝまふな
人のうちにはかの笛のひかゝきもてあそぶはきく
ちりのいとも花ちるはるの花のねるふく人むりんする
ゝもうつくしく花ちるはるのうちのさそのものをかう
うんぬのうせい人はうひゝうんはまうひゝそはさう
あはゝ行れたるうちにうひゝれるゝていさ
ぬはにあんに花いとなはみてきいにすへてあはのもの也
九条殿のきゝのまん所のはるかにうきをいふのいて
きてうんあくはなたあ雪ゝ附てんやくのうんやはるハ
たふ武ゝ花ゝ井にうゝ九条殿のちひゝうはかのうゝ
けゝくるりやうゝやゝきれ夫ゝうてゝかゝこ
ゝうの顔のうひ第ゝ梅ゝ也
苦ハゝうゝて山んさゝあるゝにハ月にうきをうるて
くゝくゝれんゝ武ゝをゝはあゝ事みゝにゝゝ
うゝゝうりんゝこゝはゝふゝうひゝきゝはゝうゝ
さゝゝ今のせにハゝゝゝにすふうあゝき
くゝんをきゝゝめきれんに上をゝ人のはうゝゝ
さゝ川きのさゝあひもすきゝはゝくゝゝはさ
ゝうゝくゝゝりゝ川くいてきゝんあゝくゝ武
ゝ川ゝをゝうゝゝゝりゝゝゝゝ紀事也

[illegible]

右乳母のさうし　百花庵宗固蔵本書写畢

右四百七十七雑部

文政十四辛卯年霜月廿日於織部卿書写

中村直衛

萱藻録巻之百廿六

萱藻録巻之百廿七

中村直道輯録

[illegible]

世にあるとおぼえしかくありけるを
ぬくとうあるてうちかぶりまきてこの
ちへさをすふものかかくていくさをせるあへぬあハ
るゝ沢のちれくわやをつゝふとの物をもとく沢か
ゝるもんてきをきゝふるゝ
ゝをうさてのうやハ津くくとゝ殺さをすふ
さうゝ思へうんく沢しるあをかりうく
ゝん地のうをとうをあへゝ事かむくしうくす
あるゝひいゝ山いうゝやくうゝを物をうるく沢いて
あやしきたうのうゝ沢川ゝちいあるうほうう
むきひきうゝに入くゝもいるあやしゝあり山ゝやくの
沒戈をうるかくくりふへ沢やくくりくうをあるを

て其ゝ物ゝん又わいゝ知る人ハうゝ沢ゝ思ゝ
ひゝれをかゝて首途にゝりやゝかゝ物沢ゝんさゝれん
代のうゝ沢わほをうゝ待をうゝをきゝん物ゝゝ
ゝうにきゝハゆをくく沢しもようふゝをゝ家にく
うゝ道ゝ西洋さうゝていくゝををうゝあるまくゝ
山ゝやくのうゝくゝあやゝき半物ゝをしゝ作ゝれ
ほゝあてあるゝう沢山ゝゝゝれやをゝ思ゝ
やくゝにてゝう物をゝいふ母いゝ沢へ沢ゝあるゝ
ゝ洋しくゝ付ゝゝくゝ事ゝゝへをゝ沢人くゝもあゝ
物ゝゝゝりひてゝのゝゝふ人をゝくゝ沢ゝをあゝう
ゝをいゝゝをゝゝ思ゝをゝ沢ゝあへゝをゝん沢ゝ
てあるへゝふあゝ孫ハゝゝん地ハゝゝへを用ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆきまうんゆく次第をこの
やうもあるべしとおぼえ侍
つてそれもあるべきまゝ
きんあるべきにはんにあ
しくて出行末のゝ紙をき
きにおのこれの紙はんしてもかるも
紙をはんあるべきにはんに紙へ
第一はんゆきは五きい六根
うゝやうあるべき行年
おぼゆるべきゝを給へ

いるゝゝきゝ人ゝ
かゝりもてゝ
天和紙ゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
きゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝ

のゝやまとのくにに紙きるものゝ
ゝうへのくるみをそめのほりいの
ほとをわりしくにを二ゝんのゝんにすれば
まくらのまゆとをうのやうにひろんをうくう
ていのきさきにやうにやうんやきに時を
れ爰に柳の川ゆゝしのひとをくるうてくるいん
してやうもひとをうのやうにしをくひをれ
もりんにくみうをのゝおほんをひるのうをうを
をいうひのわくゝにやうて柳の糸のをゝ時
すゝのゝ染ふの川もくるをやうれのまゆをふ
う糸をまかをくゝまゝ年ハにくゝ物りさ
れをかくゝをのくゝを天照太神ハ女をいやうして

楊貴妃

日月をあるをあるうのゝ紙まかひて二日月を筆
きをふ女房やいうをゝまのゝ歌のほりや
うふいはくゝう山のゝ川の月のくゝ雪をあ
くゝをるゝかれかいをあ紙やれのまゆはくれ
くゝを結へきをのゝのまへてをうわにて
へををくゝをふまれをのゝれのゝやのあ
をおほくゝ川くゝをのゝ時あのいををのゝ
あ雪花女柳男やいをちひてをへあををの
次くゝ紙くゝすして紙をほんくゝ女のうハつ
くゝをてをくゝをわんやをくゝ川くゝうれはる
ゝへくゝ
貴二ゝ先をゝやくゝれ川紙るものゝあて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第四段

[illegible]

[illegible]

[illegible]

らんハいかうときこえけれんすこ者人ちを
はるをつるんハあつしあのひいかもかるつるに事
つる人ハいかもさるはるをつ川をてもかなのもちやう
もくいひ屋うつのもあかくもつるものにくれ
又ハうよりもあかりをるのさはまりく
あるこうあくほうをはさるうハみよくしさして
あれ人あるこもうちもんにあひしむらあし
はくらつ川きもはるんゆるさ様をくん
者七はあれあるこをう半はかはのくはんを
うへ所をつ様しかうあ川くしさうあるこ
もあをまくつうそくにあるこをつ川
てハ胸はうりてちつるこあれるえよ
くれあるもいはるをつあてはかんようハはむさあるを
はかんをうへ所をつ下ハもあ川うあれをし
くはさるハ又かふそくうしれものあをもあをう
れくこきすしをへハあをもあやんまりうをさあ
かうよ川くしさのあ様やもんにひさをひて
あるこのくあをくをんへハあるはうさをし様
きはるこのそる
者人はもちつかりれあるさりてをるこをんつあ
こハひち川ひかんようにあはさりるかう様宅
つ様りへつやうにむちりれかるこちくしして
もくはきこうんハうこうはる深氏のあるこう
はこすあ川むれはんあるこうはれつうこはく

しうていうこうはくしゅうしゅうしゅうしゅうてとこあ
きりのひしきかしきとこあ又をうありたるくむ
たすうえ十大はてしのうあるにひたいるさもんもうち
たせいはさもあたあるえるやうはんうかう舞
第九御うしゅうてのかりうあ半あふれかはうはふう
すうしはかしきもしゅくしゅくしたをゆしをはる
へきりのなりはうこたおとあうれんはしちあきを
そうそゆしきしたへはうまうにあしはうはうはの
かりはうたりのたくはうれしきもんはしたくしん
しく天皇のたうたいすえしはうはしゅくはあま
りうえをまりをきるうはうたはあて一ふうはは
はあきうまりにはふたりあうさうあるうは

供奉

とかうはうはしはあやうにくまるへたしあ
くふたへ三十六人のかうはうはしんとはうれ
りるはは御はかりはるはしんりりはたりはりけるう
たはりりきるをはりんしてきんきんりうやうはん
かくりはりしはかりをはは源氏のりりはたのの
うへかくうをはりしうはんはたうりるれ
ちむりはきはりはるりふはれひゆくまを我のく
はをえ舞むりはたのうへりの御かへりちむはるも
りりありはんはりるりりりはりたりはりとを
うはりふりるふはたりみはうはりはりりの
かりはり
光十御はきぬのすはたはかりはりりはりるはりをあを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

なてはまあけくれとしきしのびくおさとの事
さきの也ゆ〜はしりとゆくさくあくたつくく
きはしりてあるへ〜
十二月廿九日ちい如房のさのくいさはるゆ〜に御ハ
まさかの仏さくにるんうのうふきあくさ沢乃ふんと
のはくかいつくうわるはしりの也神とくさ申しめたまへ
ふまりいりうこゆまちひの也
十三ゆ〜へ乃年日くるれハ初ん〜くさくの也ふくさいと
あさ海〜さはこふるかてくさくもむさくくさ山おくさ
ふはくむくひくいくさくふうはあさくふくはくさも
すはあくはしるはくあひの海れをくさくあくやう
むりやう成ふ病〜ゆをはしりあくさ人はお

ふらん命つくもるくあむ乃ひ乃年奇成御ん
うせさをあひてあるうふふきやくとくゆ沢くはくも
初んゆはしりをはくさくはくはくは

[illegible]

十四御ぞうの事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山家集
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるれひ万氏とをくくんちよしらくくさも
ちひ園ちんまんして志ちせ万く祈ひつきあ面
きん世安穏後生善所化現ん穏くちやう
世二祝ちいやしきものよくてさをまふこもおやい
らふものと三世ちちあ川ん化現ふくちやう
川をしくちあれちあ法の川ちあ祝ちよ
おりふへちあ沢をちあはわさ川ようひをては川る
さありふ面しおやはをとあいちんちやちうはの為
女躰ちくゆしやい祝をいしくあちりふあんさい
てんをちる祝ちあしてあやちをいて祝おはふをて
をちふ沢ちくあのと
世三春れんちうちあ為ふ有明ちすを

れをあしまれあ家ふちあしへちあちあ如
ちるわち家身ふしんそをあはん侍ちるいくハ
くあわちうふあいふくあ風れをひちる
はちやをくかふ安きあちあるちあしきらすハ
ちれあれをれをちるちうち年ものあちもしちれ
人をちあ祝ちをしを花ちうしれ
れあをんちの如れ年ふ
流人ちう能和川ふ寝法く晩ちみある春ちを月
女をちるれあをれを初ちいむて源氏のしちをれをん
も春のをちい祝ををを絵ひちを
世四夜れ日八あ川くをんへちれをの中ちわふくをを
ひいりん人のををあもあちうれみわひちあ安をく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わりくよりてひてきあるやうん四海ひとつ
北七御哥はきあるのこころ
れくるとよりみいきうりのるの時
まつうるをかハ佛をハ天地相應して
あきなる物のをた哥ハ
られをもの時ハをもとを沢所するをう又なり
をを稚紙をくうるあんする所を則地といふをいる
沢をの則也九脇内といはるをいはるをうて二十一家の
うるのさまをを則ものをいををいるを也如来よ
二十二さうを哥ハ二十一家ハ二十二さうを也熟
して哥はをの人ハ人の常也則五をいるの心解松か
くしてうるを姿するの詠人ををふ

やまひをくしくをあるをうたくしき八則結人はすを也
あう物のんやうるうを時のあうの物をんあれ
うの物をのををん人なり父母のきんの物ハ
うはをあくをいるをうをくみ哥のすををハ
沢かの佛也をやまひをいふをを古義をハ
風体ハ真雅須也古今の序をかるを哥をの
うのをくあるをハをの沢やをうをくらはるの
ををの春をるをくを物八月ひをうをあを
をひ花花葉はあるををををををを
はをを結郭をの初ををいふをををを稚
はを事にいひをるをうをの物のるををあるの
のあるを稚ををををををを秋のるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きをうんしてくるみのりのへくいはをうしてくるへ
かしきりとしてハ哥ハよろこび礼紙事ハ歌ハ
紙ハとはいしくくへ
きいろいろのあるかたちのはるなんハ師と親ハ
きを捨てたうとんへきしも哥ハ心をくいてハよも人
まとゆ師紙師をうんくれ
きをれハをいふあさ名へくい西と思はく金紙ハくよ
あるけをれりくはちハ紙すあるとゆふ中ものと哥の
道ハ事ハてハけんこをもくもくあひ紙ハ
うちあをいをこれ○もこをいはをうはくいは
やうはこあをはよまれゆ歌くい人百首紙ようしあくこ
をはあいをくをくてうはをうはをとこ地をくこあはう

はうをとをあるくくをうをくはをうはをくはをうはをくはをうは

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うねゝ川を舟にて御のぼりなされ
さてさてまいらせられたもの女こうもけるに入めく
ゆてうらへ来たんとくに丈よりすくに海とうへ舟
のぼれば御ちうのひしうとかわりて御
ぜへきに入の舟をしようこ物ほうれくきゆくうを
てうこ見たきうり道ぶ学一世とりさをのふ
女流の御ん三ゆ花ふくしをそくに又かつかをうれ
さまふへうんもやさしくいわとかりみりて
うハかりゆ花めふへくゆさうしかをふ海ら花ゆうん
うゆ物ゆ舟ゆうしかゆ御ゆうゆ
ふ花物語ゆしかへゆくゆ海ゆき半ゆうゆ
き半ゆくゆかりみうゆ乃ゆれゆえうを世をよひもん

や御免のやるゆりけるゆ
さうれゆふゆんゆゆりゆれゆ海ゆう
二十ひとあれゆうゆれゆんよゆ花御御ゆえうを物語ゆ
御ゆうゆふ舟ゆんゆうゆうを
成人のうゆふゆうゆりゆゆの半ゆうゆ
ゆうゆれゆんハゆうゆゆきゆうゆんゆ海ゆうゆは
ゆう入ゆれゆく御ゆうゆゆ称ゆゆ海方ゆれゆ人雲井
成ゆうゆりゆうゆ御ゆんゆ
ゆうゆこゆうゆれゆけゆうゆゆゆうゆゆゆ
ゆうゆほゆうゆゆ花ゆりゆゆゆ中ゆくゆうゆうゆゆゆ
ゆうゆひゆ花半ゆ人の御身ゆりゆゆゆゆて人
ゆう花ほうゆやさゆくれゆゆ御人ゆゆゆゆ御

[illegible]

廿一人ばかりの御所御人のうちにて
入くるしいやしみもうのむきはみゆるあも
大くるしきあるうちにいさゆまれるうちむまれ事
くあるよ入くるあらもとめるあくるとそ所用
をるやうにあるあくるふしさけうてはかひ
柄 貝
わけこうんすくうくもむ又ひさうさくこうの
うれうたとれはいつひ又はいてもいくもん
りんをるいのうもうあるひさいくせ
廿二御所すくういるはうやうをしへはそくつとやうさ
をるりん時も又はまへあてめされるむるあんしく

小すへくるはすくうすくうのあるはあるれ
くくふくうはくさのくるくくとくあるくうへに
をうしくをくれていくされくくあむあふすへあ
をくるくくをくるくくをけあをみとすくふく
はくへよ稽うしはくをくはくく
廿三くるはあれ人あるはあひくまへてくくあ川
くくあはくへあひくれくくはくくくへ特はは
やくくくくくくくるはあるあくるかまへてくくく
はくくくひくくはくひくくはくくへきへあくはくはくはる
すはくはくくあはくくくくくくく

ふく所にてさいへきを入れをくふのたに
へとも入れんやをくをくしてくいへのゆーみたる角に
なれもをくゆかいて井もてをものをて
於四はをくをくめかいへいかんをくをくきんあく
ひろ物ゆかいやくくをくをくわるいへるかをくを川する
四ん有るゆーゆまいをくせ物ひーをくをいをくを成
あるくくあるをくをくいをくんいるゆきゆをて行やをを
てをくをくふをくひ浮かくをくをくをくきんわるくをたの
身をかをくをくひをくをくをくをくをかゆをくをくをくをくひーを
廿五行ふくをくをくゆをくを一をくをくねるをくをくをくをよ
をくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをを
くをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをて

ふくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくをくを

廿六日　ちくあみ　あうりょうとて　ちゃ紙
ちょうはんをすりて　まりてちゃ　ひきさけて　ちゃ
ちゃうくちゃうひろさ　をりもの　ぬりたてうちの
ちゃ紙ばかりんちゃ　とうてう　うつくしまいつをへさやうんと
うくひていつをちゃくれ　ぬちゃうんぬちゃへにぬく
ぬの紙ちゃくちゃうぬ　ぬちゃのうてん

廿七日　ちゃうんとめちゃれちゃくむ　紙すりてまいり　入こ　紙　春筆
をちりてまいりぬゆちゃとあをく　右ちゃ紙ばかりちゃを
まいつ　ぬちゃうちゃたてん

廿八日　ひきうすやう　入りかく　入りかちゃをちゃんみ百
をちり二百すりちゃも　入うん　ぬちゃ　ひきうすとりちゃ
ちゃうちゃすへらちゃて　ちゃうんかいつ　ぬ十をちゃ廿

すりちゃてちゃ　ちゃくちゃ　ぬちゃ　ちゃうんをちゃ
ちゃくちゃうすやう　ハ一て　ちゃ二てちゃ　ぬてちゃ　ちゃいなちゃ
ぬくちゃりけ　ぬくいちゃ　ちゃれへ　一をちゃ　ちゃて　ぬちゃへ
ちゃをへ　なるちゃくハ　ぬゆちゃ　ちゃれちゃ　ぬちゃへ
廿九日　ぬひちゃ　入みいちゃ　ちゃれちゃ十ちゃけ　ちゃいて　ひろ
ちゃちゃへちゃれへちゃ　一ぬちゃ　二ぬをていたんちゃの
ぬくぬちゃみちゃうちゃ　ちゃうちゃ　ちゃひてちゃ　ちゃふちゃ
ちゃをひちゃちゃぬりひゃ　ちゃへぬ　ちゃをちゃ　ちゃかいちゃこか
ちゃちゃへちゃれちゃぬて　ちゃ入ぬちゃをぬひ十ちゃ廿ちゃれ
ちゃへぬひちゃみちゃうぬ　ちゃやう紙ぬちゃへちゃをちゃみ　入ち
ぬちゃちゃ　ちゃ紙ちゃ　ちゃいちゃぬ　ちゃれ一ちゃ二ちゃ　ちゃ
ちゃちゃかちゃぬ　ぬちゃ　ちゃうちゃ

四十ぬきてのち人のいとゝ後中納言殿ぬきて
四十のうちの八十さん五十さん百さんとやうにて時ハ
さきみ入道殿めしまゐられたるぬき後義入
のとハ十さん五さんもゐられのきうとゝ仕よすへきゐ
人々ゐんゐ物語ゝ又さきの方のきわ中ぬのきを
人のゐゐゐゐゐゐとハいふうゐてゐきさんハとゐゐゐい
ひくゐゐゐゐゐひとゐきゐてさんハゐゐゐゐゐれゐゐれ
かゐゐの御つゐ御ゐきゐうゐゐゐゐゐゐひ
ゐゐ中ゐハうゐゐゐゐゐ仕ゐひぬゐゐゐゐゐゐ
ゐハゐゐ入道殿々ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
きゐゐゐ四へゐ殿ゐて十さん女さんつのゐひぬのゐゐゐ
ゐゐゐまゐゐゐ殿ゐ殿ゐゐゐゐゐゐゐゐ

四十一ゐゐゐゐゐゐゐぬのゐ太布ふゐゐハ御ゐ御ゐゐゐゐゐて
ゐまゐ女院のゐゐゐれゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
四ゐゐゐゐひゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐぬゐハゐれゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐ井ゐれゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐハ
ゐゐハゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
四十二ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四十六、御方様ゆのかへ内ゐんと八人ゆのかへ
まゐるあつまりてゐるわらはゐんせさせ
給しまつゆゑ内ゐんたちこゝにまゐりこゝかし
きぬをまとてこゝにまゐれこゝにまゐる一条院
上東門院の命婦の弁の内侍さとハたちつゝき
倫子
殿ゐんの女はらゝゆゑにて八内ゐんの女房まゐる也
四十七、月ゐんの御ハ初けはふてうしてゐるハ又ひ
るうしてをりてさいつゝ御ハみきをさゝげまゐりとゐ
まゐりてまいりたるのはけはふ
をまちくひうめひ
をまゐりてをこれと内ゐんひの
くらゐハ大さ月ハ八ちいゐきハ十二月ふたゐ内ひ
ゆくハまをうしさうひゐ又内ゐんしやくもも
よくはたらきたいうしまつめくゐきそく
うかひて北面をあ宣てうこ成すかひとく
ひうちはくしゐちくゐ初り内ゐをとくうへし
たゝをくのあそりてゐ内いさゐれゐしをくの
人のおゐひゐ内ゐまてハまゐせまいをゐ
ていまゐくゐそゐひゐていさゐれゐかい成ゐんし
うゐひゐるゐおゐい又けい皆いるゐのゐ年さくゐさゐ
ぬへきかをうゐをそうして初をいゐ年ゐあゐ
ゐまへ成人ゐをゐをぬやうに初ふゐまてゐいまへとハ
きをゐ人ゐまへゐをゐけをゐをゐをゐ
うゐうしくゐまゐさ年みくゐ

四十八御ぞんぜんあるこしあるあ
ものんこのうへにひきくんさうへき人
くわきこうはてはてあるまきこと
あるまきこしたくこをしはいくるもくはたを人
きこひやうふくあるまうひむしまをひあくはるこの
はくこもまてもきまくいみ人めよりはゆ入あし
四十九はものまうてのあけくはあるあ
なまこうはものまうてあはゆはたこわもなこむらんやへも
めはあこうはいふはあうこ納文もものからんきねたな
こふうあうはたのこあ兼こあるはるはたこう
うこまんこいくこはいこはさはふあはたのあこ
やはあはいはこくはいたこ一大四はあ

ものあこあふのあうこものこあこはまこていはこな
うたうはせはひういはもくこあんあはれこはこな
みはくあやうはんまんたはのはあこりやなへくく
はくはもくはくはくはれこて一あはくあんこはは男に
かこくんものこくはせこはたへかはうはは男にあはこ
あはふこはものはたあこあはあはあはくは
はあはあはこはあはあはうはなくあはたはけこはは
くはは史はうあはは男はへはあはもくはくんあははこ
あこあはきくはきくあははうふはくはくはあこ
はふへはくはこはあははうはあはあはは男
はまくはくはははくはははこはあはくはははも
あくはくはくはくはくはは

此一書未詳雜仰而三十五ヶ條中武家
奚領之文則應永以後之記者必矣一日
小笠中者被許云歟乞後成恩寺殿下
之御作也乎云々仰以記之而已

天正八壬三月初六　藏人右中弁藤判

右四百七十八雜部

文政十四年辛卯春正月十四日於城内御書寫ミ

中村萬喜直道

薫蕕錄卷之百六十七終

薫蕕錄卷之百六十八